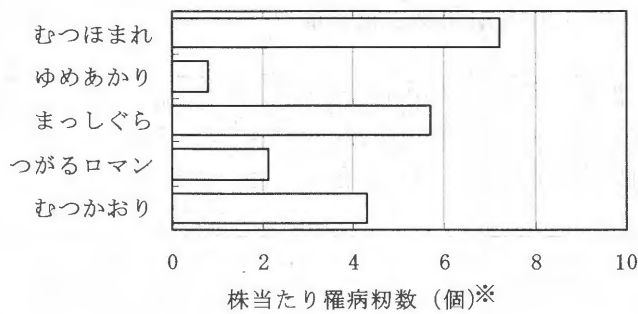


事項	青森県の主な水稻品種における稲こうじ病の発生状況		
ねらい	<p>稲こうじ病は冷害年など冷涼な気象条件下で多発し、収量・品質低下の大きな要因となっている。</p> <p>本病に対する品種の感受性には差があることが一部の品種で知られているが、その知見は少なく、また、本県の品種に関する知見もない。</p> <p>そこで、平成15・17年の調査の結果、主要品種で稲こうじ病の発病に品種間差が見られたので、防除指導上の参考に供する。</p>		
指導 参考 内容	<p>1 本県主要品種である「つがるロマン」、「ゆめあかり」、「むつほまれ」、「まっしぐら」における稲こうじ病の発生状況を相対的に比較した結果、「むつほまれ」で特に発病が多く、次いで「まっしぐら」で多い傾向がみられた。</p> <p>2 窒素質肥料が多い場合、発病を助長する傾向が見られるので、多肥栽培をさけ、適正な肥培管理に努める。</p>		
期待される効果	本病に対する防除指導上の参考となる。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は、平成18年3月1日現在の農業登録に基づいて作成した。</p> <p>2 農業を使用する場合は、必ず最新の「農業登録情報」(http://www.maff.go.jp/nouyaku/)を確認すること。</p> <p>3 本病の発生は気象条件に左右されることが多く、穂ばらみ期の低温、日照不足、多雨などで発生が多くなる。また、前年発生が見られたほ場で翌年も発生が見られる傾向がある。このような場合には防除を行う。</p> <p>4 本調査結果で発生が少なかった「つがるロマン」、「ゆめあかり」でも、気象やほ場の条件により発生が多くなることもある。</p>		
担当	青森県農林総合研究センター 病虫害防除室	対象地域	県内全域
発表文献等	平成15年、平成17年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集 第59回北日本病虫害研究会		

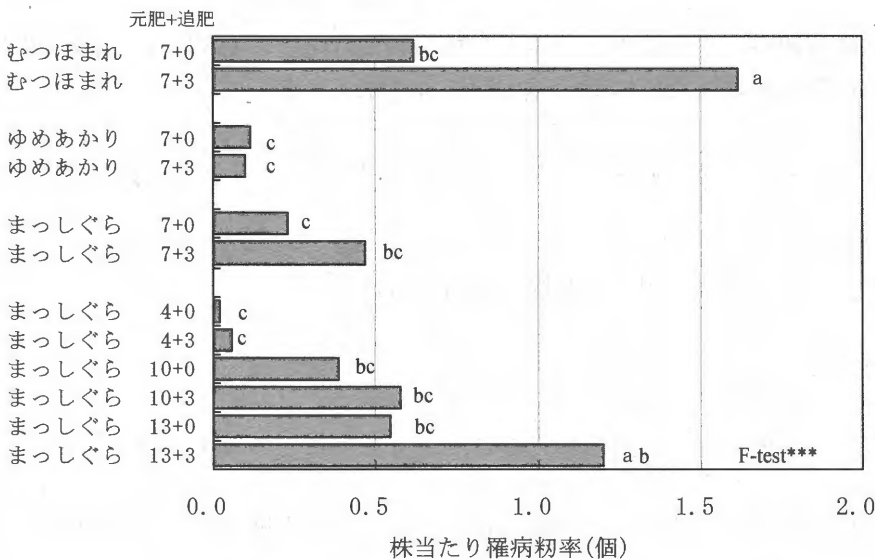
【根拠となった主要な試験結果】



調査場所：農林総研藤坂
 移植：平成15年5月16日、
 基肥：N:P₂O₅:K₂Oとも7kg/10a
 追肥：N:K₂Oとも3kg/10a (7/16幼穂形成期)
 防除：8/20、9/16にフラスン粉剤DL3kg/10a散布
 調査方法：平成15年10月24～27日に各区24～50株を調査
 ※平成15年は冷害により不稔が生じたので、以下の式により補正した。

$$\text{株当たり罹病粒数} = \frac{\text{株当罹病粒数}}{\text{株当総実粒数}} \times \text{株当総粒数}$$

図1 主要品品種における株当たり罹病粒数 (平成15年青森農林総研)



調査場所：農林総研藤坂
 移植：平成17年5月18日
 基肥：P₂O₅:K₂Oとも10kg/10a
 追肥：7/16(幼穂形成期)
 防除：8/4ブラシン粉剤DL、8/11ブラシントレバリダ粉剤DL
 調査方法：平成17年9月29日に各区100株調査

(注) 同一英小文字で示した平均値間には有意差が無いことを示す。(Tukey多重検定, 5%水準)

図2 品種・施肥と株当たり罹病粒数 (平成17年度 青森農林総研)

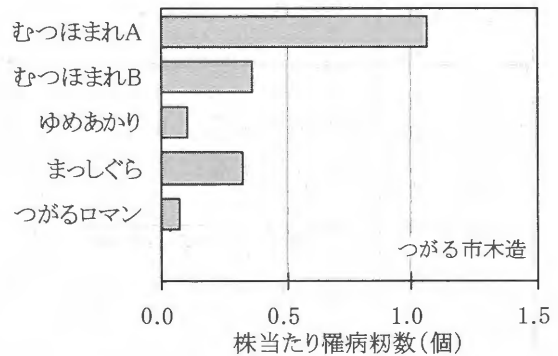
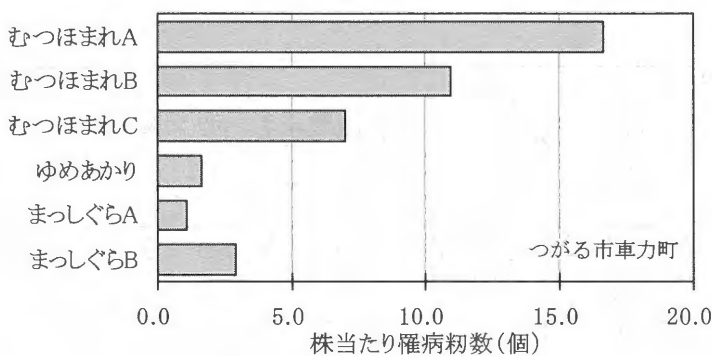


図3 現地ほ場における品種と株当たり罹病粒数 (平成17年度 青森農林総研)

つがる市車力町現地ほ場
 移植：平成17年5月14日
 基肥：N:P₂O₅:K₂O=4.0:9.4:7.25kg/10a
 追肥：N:K₂Oとも3kg/10a(7/11)
 防除：航空防除にて7/23カスラブサイドゾル、8/4カスラブトレボンゾル、8/14ブラシingle
 調査方法：平成17年9月16・17日に各区50株調査
 なお、A、B、Cは同じほ場内の別区における調査

つがる市木造現地ほ場
 移植：平成17年5月22日
 基肥：N:P₂O₅:K₂O=4.2:6:5.3kg/10a
 追肥：N:P₂O₅:K₂O=2:0.5:2kg/10a(7/17、7/23)
 防除：無人ヘリにて7/25アミスターエイト、8/6ノンプラスフロアブル、8/16ラブサイドフロアブル
 調査方法：平成17年9月19・20日に各区300株調査
 なお、A、Bは同じほ場内の別区における調査